当面のスローガン

- 本年こそ「人権侵害救済法」を制定させよう！
- 狭山再審闘争の勝利をかちとろう！
- 続発する差別事件の糾弾を徹底しよう！

解放新聞 和歌山版

発行所
解放新聞和歌山支局
〒640-8314
和歌山市神前 405-3
TEL 073-473-2301
FAX 073-473-2302
発行責任者
藤　本　哲　史

自熱したドッチボール大会

県連青年部

第2回青年部スポーツ交流会及び全高・全青報告会を4月17日、同和企業センターでひらき、県内から7支部42人が参加した。

全員で集合写真

松井資喜・青年部長から「昨年の全国高校生集会・全国青年集会の報告について多くの意見を出し合い、議論を深めてほしい」とあいさつした。つづいて、久保智弘・事務局長から、全高・全青でおこなった分科会の概要を説明し、各支部から報告があった。分科会では、参加者が各グループに分かれて自身の支部活動について意見交換をして交流を深める参加型の形式ですすめられた。参加者から「第5分科会で、アイスブレイク（※）をした。その経験を支部のシニア会で報告できてよかった」「第4分科会に参加した。狭山の再審を強く望む。青年部として深く把握していきたい」「青年部がこういう場面になかなか参加しないことに悩んでいる」など、多くの意見が出された。最後に、杭ノ瀬支部から「全高と全青が合同開催となっているが、別々にできないのか」と質問され、松井青年部長から「中央本部は高校生から青年にスムーズに移行できる環境をと考え、合同開催してきた。県連としては、高校生は今までどおり、2泊3日でしっかり議論してほしい。中央本部にそれぞれの開催を要求する」と説明され、全高・全青報告会が終了した。

白熱した試合がくりひろげられた

午後から、東和中学校体育館でスポーツ交流会（ドッチボール）をひらき、各支部の高校生・青年、飛び入り参加も含め、45人が汗を流し、優勝をめざして戦った。A～Dの4チームに分かれ、年齢の違いを感じさせない白熱した試合は、子どもたちの表情から大いに感じられた。激闘のすえ、Aチームが優勝し、参加者で記念写真をとり、交流会を終えた。

高校生の熱気に圧倒された青年たち

※緊張をときほぐすための方法。自己紹介をしたり、ゲームをするなど、さまざまな方法がある。

■青年対策部会議ひらく

4月15日、同和企業センターでひらき、松井青年部長、対策部員8人が参加した。討議内容は、第37回県連青年部定期大会の日程、役員の確認、全高・全青活動者会議の開催、狭山市民集会、第61回県連大会について確認した。

●県連青年部定期大会

5月29日（日）10時～
同和企業センター

全高・全青の報告会であいさつする
松井資喜・県連青年部長

頑健

先日、元ウルグアイ大統領のムヒカさんが来日して話題になったが、ふと「エイズ」のことを思った▼エイズのまん延は、アフリカなど開発途上の国を中心に、地球規模の深刻な事態である。そして、今、長い間のウイルスとの闘いで医療が勝利を収めようとしている。ところが、もう一つの闘いがあった▼エイズの治療薬は極めて高額である。年間150万円以上といわれる治療薬は、途上国の貧困な患者には買えない。そこで、多くのNGOなどの「特許権」の緩和措置などのとりくみで、安価なジェネリック薬品が使えるようになり、多くの生命が救われるようになったのだ。しかし、欧米の巨大製薬会社は、「特許権」などの権益を守るために政府を動かし反撃にでた。「トリップス協定（知的財産権の保護）」を結びWTO加盟国がジェネリック薬品の製造・輸出入ができなくなり、当然、超高額な治療薬しか使えないシステムをつくったのだ。つまり、途上国の患者に『お金がないなら死んでください』ということだ▼製薬会社のコストや権益はともかく『文明の発展は、その先に人間の幸福があることを忘れてはならない』とのムヒカさんの言葉は重い。今、薬さえあれば、さまざまな病気に苦しむ生命が年間1千万も救われるという。

（S・I）